

災害時の通信断絶に備え、日本で初めてバスとバス停間での 端末間通信の実証事件に成功！

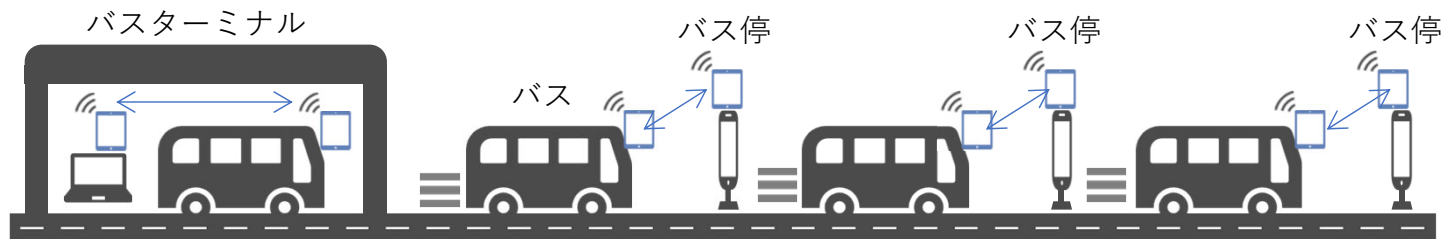
少ない設備投資で「もしもの時」に力を発揮する端末間通信整備の第一歩

株式会社NEXTVISION（神奈川県横浜市 代表取締役 佐藤俊介）は、災害に強い次世代地域情報インフラの構築を目指し、『いつもの暮らしに備えをプラスして安心な社会をつくる』がコンセプトの「+ソナエ・プロジェクト」が提供する端末間通信技術（スマホdeリレー®：構造計画研究所提供）を活用した実証実験を相鉄グループの協力を得て実施した。

2022年3月7日から3月11日（金）までの5日間、相鉄バス「旭1系統」二俣川駅南口バスターミナル⇄鶴ヶ峰駅バスターミナル間、左近山エリアを運行するバスとバス停を利用。今回日本初の試みとして、営業走行中のバスと乗客利用中のバス停間で携帯電話網やインターネットを介さないすれ違い通信による情報伝達授受の実証実験を実施し、予想を上回る高い成果を得た。

今回の実証実験の結果をもとに、端末間システムの導入に向けた課題を把握し、交通機関（電車・駅）、街やビルなどの商業施設も含めた新たな情報伝達手段として、停電や通信途絶の状況においても、災害情報を始めとした地域における最低限必要な情報のリアルタイム共有を目指した地域サービス基盤としての活用を目指すとともに、緊急時だけでなく、平時からの活用も視野に、クローズドエリアにおける情報伝達の内容設計を進めていく。

営業運行中のバス（時速約30km）と乗客利用中のバス停間で端末間すれ違い通信により情報の伝達を行う実験の結果、バス停通過時は**120KB**まで、乗客乗降のためのバス停停車時は**300KB**までのデータ通信に成功。通信環境が無い状況において、バスをはじめとした交通インフラが情報を所定の場所に運搬することで、自動的に必要なデータを必要な人に伝える事が可能となる。



本リリースに関する報道お問い合わせ先

株式会社 NEXT VISION

担当：野川 徹夫 電話：045-650-5457 e-mail：nogawa@nextvision.jp

実証実験概要

期 間	2022年3月7日から3月11日（金）までの5日間
会 場	相鉄バス旭1系統 二俣川駅南口⇄ 鶴ヶ峰駅間
内 容	<p>① 左近山第3停留所 ② 左近山第5停留所 ③ 左近山第6停留所</p> <p>スマホdeリレー技術による端末間通信の有効性の確認を目的に、E-INKタブレット端末をバスターミナル、バス、バス停に設置し端末間通信によるデータ配信の実証実験を実施し、以下の性能検証を行った。</p> <p>① データの送受信が可能な距離 ② データの送受信が可能なデータの種類と容量 ③ バス停側機器の消費電力量</p>

